

京都新聞投稿欄に掲載！！

～環境科学の取組～

2年生生産科学系列と教養系列の選択科目の「環境科学」(16名)では、夏休みの宿題(環境に関する作文)を京都新聞「窓」欄に投稿しています。

10月28日(水)付けと11月25日(水)付けの2回、2年生 藤田 葵さんと野村 朋希くんがそれぞれ掲載されました。

今後掲載される可能性がありますので、京都新聞の水曜日(若いこだま欄)をご注目ください。

※画面を大きくするためには、Ctrlキーを押しながら、マウスのホイールを前進させてください。

海にごみを捨てないで

京丹後市・藤田 葵(高校生・17)

周りのみんなは夏になると海に行きたいと思うようですが、私はそうではありません。その理由の一つは、海にごみが多いからです。砂浜にはいろいろな物が落ちていて足に触れると痛いし、海に入っても何かが浮いています。私はそれが嫌なのです。

だから私は小学生や中学生の時、海をきれいにしようとして活動するボランティアに参加しました。その時に見た光景に驚いたことは今でもよく覚えています。

砂浜には大きな木の枝やペットボトル、発泡スチロールや電池など、さまざまな物が捨ててあり、海にはビニール袋などが浮いていました。これでは、海産物がとれなくなったりするのは当たり前なことだと思えます。

ごみの問題で海のおいしいものが食べられなくなるのは困ります。あちこちにポイ捨てをしないことや、自分で出したごみを持ち帰るなど、海をきれいにしていく活動を進めていきたいです。

自然の川をいつまでも

京丹後市・野村 朋希(高校生・17)

僕の住む地域では近年、川に住む生き物が住みにくくなっているのではないかと思います。ビニール袋や大きな鉄の棒など、自然にかえらないものが流れ着いているからです。鉄のようない物は、人間にとっては危険です。

また、少し前までは生活排水が川に流れ、川を汚していました。祖父や近所の人からは「昔は魚がいっぱいいたのに」とよく聞きます。昔比べるとコンクリートブロックが設置されるなどして環境が変化したことに加え、生活排水などの人間の活動による影響もあると思います。

僕は小さいころから川で魚をとったりして遊んでいて、今でも子どもたちが川で遊ぶのを見て嬉しく思います。

家族の大切さ忘れな

家族を殺したりする人のことをニュースで見ました。どうしてこんなことをするのでしょうか。

私は、一番大切なのは家族だと思っています。その理由は、家族が一番身近で、自分のことを大切に思ってくれるからです。母は何かあったら必ず助けてくれます。父は仕事で忙しいのに、休日には家族と遊んでくれます。姉たちは自分の勉強で精一杯のはずなのに、私に勉強を教えてくださいました。妹や弟はいつも笑顔で接してくれて、いやなことを忘れさせてくれます。

もう一つの理由は、5年生の時に行ったオーストラリアのホームステイ先で思ったことです。夜になるといつもなら家族の声が聞こえるのに、寂しい感じがしました。

ゲームやりすぎ

5年生の3学期に国語の授業で、ゲームのことが取り上げられた。その話の中のクラスでアンケートがあり、「みんないついっしょにゲームやってみよう」と思った。でも、そんなにゲームをやるのは良くないというのが私の意見だ。

第一の理由は、自分もゲームをやりたいことがあったからで、それになかなか宿題ができなかった。第